

竹田市立南部幼稚園 5月中旬(5月10日~31日)「忍者ごっこ」

【ねらい】固定遊具や運動遊具に興味をもち、体を動かして遊ぶ楽しさを味わう。

【内容】固定遊具など室内外の運動遊具の使い方が分かり、すすんで取り組む。

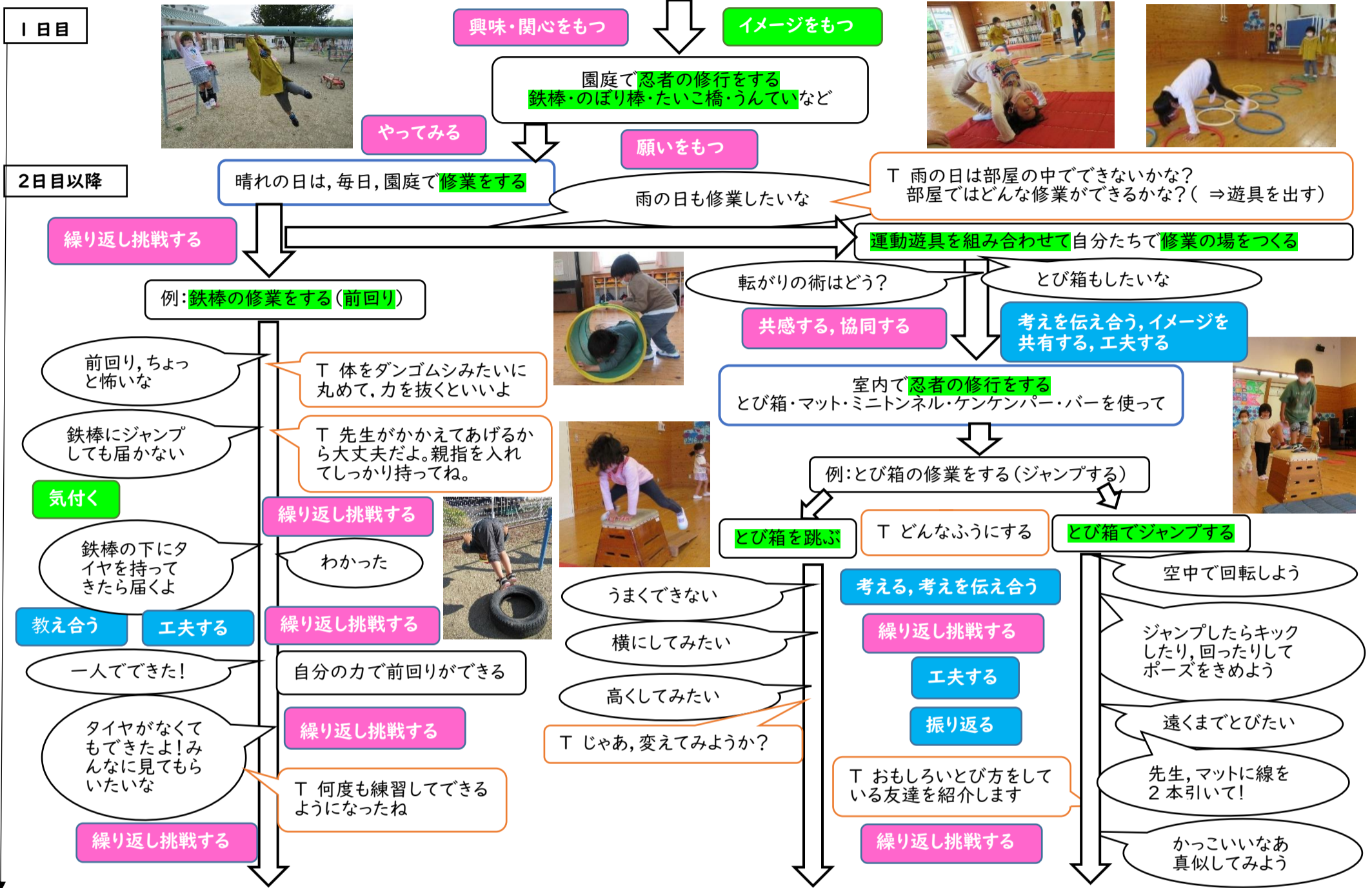
【遊びのプロセス】*遊びの中で育まれている資質・能力を下のように表している

知識・技能の基礎 知識・技能の基礎

思考力・判断力・表現力等の基礎

学びに向かう力・人間性等

子どもたちは、園庭の固定遊具の使い方を知り、好きな遊びの時間に固定遊具で遊んでいる。その様子を見て、保育者は忍者体操や忍者が出てくる紙芝居を保育に取り入れた。その中で、「自分たちも忍者になりたい」という子どもの思いが生まれ、「忍者の修業に行こう!」という保育者の呼びかけに、子どもたちもポーズを決め、忍者になりきって移動するなどし、忍者修業への関心・意欲を高めている。



園庭で始まった「忍者ごっこ」は、子どもたちのいつでも遊びたいという気持ちから、室内にも場を広げていった。忍者修業の場や修業の仕方などを自分たちで話し合ったり、つくったりしている。子どもたちは自分のやりたい場や技を選んで、進んで挑戦し続けた。

<p>□環境の構成・ ◇援助のポイント</p>	<p>□室内での修行に使えるような運動遊具(とび箱・マット・ミニトンネル・ケンケンパー・バーなど)の準備、使いたいときに自分たちで出して挑戦できるような場を設定する</p> <p>◇固定遊具や運動遊具へのチャレンジを忍者ごっこの修行に見立てて、チャレンジしたくなるような導入を工夫する ・忍者体操をする ・忍者の絵本や紙芝居を見る ・忍者にちなんだ曲を流すなど</p> <p>◇チャレンジする遊具や遊び方を自分で選択し、主体的に活動できるように、子どものやってみようとする気持ちを大事にする。</p> <p>◇自分の力で取り組もうとする姿を認め、励ましたり、手助けしたりする。また、できるようになったことを共に喜ぶ。</p> <p>◇友達の思いや頑張りに気づき認め合ったり、やり方を参考にしたりできるように、毎日の振り返りの場で感想や思いを出し合ったり、子どもができるようになったことや頑張っている姿をみんなに紹介したりする。</p>
-----------------------------	---



【本活動・遊びで着目したい「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」】

<p>思考力の芽生え</p>	<p>健康な心と体</p> <p>友達と一緒に忍者ごっこをして、固定遊具や運動遊具にチャレンジする中で、自分なりに遊び方を考えたり、友達に刺激を受けたりして、遊具の使い方に注意しながら、体を存分に動かして遊ぶ。</p>	<p>自立心</p> <p>保育者や友達から励まされたり、頑張りを認められたりする中で、できないことにも頑張って挑戦しようとする気持ちをもっている。何度も繰り返し取り組むことで、できなかったことや難しい技もできるようになり、達成感を味わい、自信をもつことにつながっている。</p>	<p>協同性</p>
----------------	---	--	------------

【小学校以降へつながる資質・能力】

<p>《知識・技能の基礎》</p> <p>・遊具の使い方を知り、安全に気をつけて遊ぶ ・体を使った多様な動きをする</p>	<p>《思考力・判断力・表現力等の基礎》</p> <p>・自分たちで試行錯誤や工夫しながら、場をつくったり、遊び方を考えたりする ・どうすればできるようになるか考え、友だちに教える ・友だちの考えに触れ、取り入れる</p>	<p>《学びに向かう力・人間性等》</p> <p>・やってみたくて興味・関心をもつ ・難しいことにも、あきらめずに取り組む ・繰り返し挑戦し、できるようになったことで、自信をもつ</p>
---	---	---